

# ガンとの闘い

1/3

昨年2月ごろからのことでした。体の一部に何かの異常を気付きながら、「なにそのうちに直るわ」そんな気持ちで過ごしていました。家内が堪りかねたのかそんなひょっとした私の仕草に「診てもらっただけでも診てもらったら」と普段にない口調で話しかけてきたのでした。

まさかと思いながら重い腰を上げ医者との問診、医者も会話の中でガン検査と進んでいったのです。待ち遠しかった1週間が過ぎ結果は予期もしない胃ガン宣告でした。しかも28mmという悪性進行がん。その場で手術入院予約と進んでいくのです。頭の中は真っ白、うろたえて帰りの書店で本を買いあさり、少しでもと知識を読み漁りました。

ちょうどそのころOPCでは大田区教育委員会主催「ステップアップ講座・団体活動のためのパソコンでつくる魅力ある講座」なる地域で活動されている団体のリーダーを集めての講座をOPCが実施担当することになり、準備も終わり、実施最中のことでした。後髪を引かれながらも後は藤田副会長ほかOPC会員有志にお願いし手術に備えたのです。



サラリーマン現役時代40年、社員の世話はしながらも自分では病気という病気は縁のない人生だったがゆえに入院への気構えもなく、なるがままでの挑戦でした。

今の医学は医者との問診で医者から病気の現状報告、これからの手術手順、本人の気構えなどを話し合います。そのころ患者と医者の信頼感、疎通も出来上がってきます。医者の発言では病人である本人がいかにかこの病気に立ち向かっていくか、気構えを自認、認識させます、そのため手術・検査には同意書・同意書にサインさせられ、最初は「どうせ責任逃れだろう」ぐらいにしか思っていませんでしたが、本意は本人に認識をさせる意図があるからです。これから行われる治療を何のためにどうして行うのか分かったうえで実施することが手術後の養生ケアに大いに役立つからです。(現に治療中の今ではよく自分で認識しております。)

手術台にのって主治医と硬い握手をして目が覚めたときは9時間という長い時間が経っていました、時間に気付いて、どうしてこんなに長くかかったのだろう・・・ひょっとすると何かの難病が発見されたのではとつい、うがったことを思い出します。「順調でしたよ！」廻りは気を静めようと思っての気遣いでの発言でしょうが9時間という長時間での作業に「ありがとう！」という気持ちで一杯になったものでした。



あくる日、主治医との対面でお互い安堵感が湧き言葉にならない表情、医者だけが自信ありげな対応で接してくれたことが自分にとっては安心感が湧いたものでした。

入院室ではガン患者が何フロアーも占めています、それだけ現代のがん患者の多いことに気付かされます。病状の表情もそれぞれ違い対応も違います。そのため、各フロアーに休憩室もあり図書室まで備えられています。驚いたことにOPCの会員の方も入院されていたことです。お互いびっくり、同時期、同じ病院で同じフロアー・・・そこまでガンが我々に押ししかかっているということです。良い意味ではお互い励ましあい前向きに治療に立ち向かうと励ましあったことです。

入院して2～3日もすれば手術口の痛みも治まり、今までにない自分に気付きます。初めはガンと聞くと「痛み」「苦しみ」「死」を想像したものでしたが、看護婦などの励ましで病気と真正面から立ち向かうことが生きることに関心されてきます、ガンという病気は諦めたら「死」よ！と諭されたことに心を打たれました。確かにがん細胞は誰しものが持っている細胞で常に攻撃をかけてくる細胞であることが分かっていたから、納得のある励ましだなーと自認したものです。あれやこれやと諭されるうちに入院の期間も10日も過ぎれば退院を勧められました。ということは順当に回復に向かっている証拠、食事も絶縁食から氷片、流動食へと変わり、三分粥、五分粥となり9日目には柔らかめの普通食となり退院とつながっていきます。それでも胃の3分の2を切除しましたから小鳥のように小食で常に食いつまんでの食事が続きます。私の場合早期ガンでもすでにガン根がリンパ節まで達している状態で退院後「抗がん剤投与治療」を1年間続けることになり、抗がん剤副作用との闘いが続いています。今の医学はガン延命は90%と高くなりましたが抗がん剤副作用に日夜進歩はありますが未解決が現状です。患者が途中で挫折することが死につながっています。



倦怠感、嘔吐、便秘、下痢など人によりさまざまですが軽くなることを患者と医者で見出していきます。退院後6ヶ月ぐらいいまで抗がん剤の量、種類を変えたりして進めていきます。その間免疫力は下がっていきますから、体力強化に努め、運動・体操に努め、風邪引きなどに気をつけていきます。今に思えば確かに副作用に負ければお陀仏と思い、皆さんの顔を思い出しながらがんばったことが懐かしく思われます。

代った立場での見方発見、まさか自分が病人になり、今まで発見できなかった物思いに接し今までにない感覚がそこにあるのです。パソコン例会で仲間とPC操作をやっているうちに新しい事項に出くわし、その先を早速我が家で試している最中、新しい操作が出来たようなものだ。性格柄、いつの間にかのめりこんで時間がたつのを忘れて、気付いたときは疲れ果て寝込んでいました。



今は違う、今までと違った目線で見ると新しいことに接しているのだが副作用で体がだるく長続きしない。そんなことが2ヶ月も続けば「もうダメか」と塞込んでしまう。免疫力の低下だ、こんなことは自分だけではない。自分は未だマシの方だ、

と自分を奮い立たせるのだが、何しろ気力までが後ろ向きになってしまう。そんな時OPC仲間が寄せ書きして下さった色紙を広げ心の支えにしました。

こらぼ大森で得た知識を蓮沼中学校で教えてもらった知識を我が家に持ち帰り、試して応用し感動を得る。健康体のすばらしさがどんなにか嬉しいことか、そのときはなかなか気付かない。退院してからもPCでインターネットを使った情報でことが足りる。

○ ○○ ○○ ○○ ○

OPC会員の皆さんだけでなく、今更ながら健康体である皆さんに申し上げたいのです。

時代が流れると同じに食文化も変化していきます、美味しく、綺麗に、スマートにとつつい1食の食べ物が2食に、1杯の飲み物が2杯にと、考えてみればさーこの食材がどういう形で出来上がってきたのか、元は追いかけられません。私のがん細胞が食材であるとは申しません、自分の食生活の不摂生から出たのかも知れません。言えることは健康体であるがゆえに食生活、規則正しい生活こそが健康体を維持しているんだということをお認することです。一歩止って自分を振り返ることの大事さに気付くことです。入院生活を体験して気付かされたことは多々ありますが、そのときは親から貰った五体の臓器の一つを取られて気付いた後です。どうせなら五体付けて次世までもって生きたいものです。

これからガンは二人に一人が患う時代といわれております。早期発見こそが救命につながります。年に一度の定期健診は受診しましょう！

どうか皆さん、OPCで学ぶことはまだまだたくさんあります、仲間との触れあい、人に会えての感動、教わっての嬉しさ、ありがたさ、教えて喜ばれる嬉しさ・・・病気は気付いたときにはもうそこにわが身に迫ってきているのです。医学は進歩しているとはいえやっぱり健康体で行きたいものです。最後に今回の入院、休会にあたりOPC会員の大勢の方々からの温かい励まし、お言葉で無事生還できたことを深く々々感謝致します。そしてOPC復帰後は又皆さんとともにOPC活動に活躍できることを楽しみにしております。

健康こそが第一！

永田武光

OPCからのコメント：

永田さんは現在 OPC 活動を控えておられますが、今期には復帰されるように頑張っておられます。会員全員で応援いたしましょう！！

16 ページの写真のように元気な永田さんが OPC 活動に参加される日を楽しみにしています。

